

郡上長良川ロータリークラブ

クラブテーマ **楽**

会長：小島正則 副会長：山下 誠 幹事：松森正和

例会日：毎週水曜日 18：30～

例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F

TEL：0575-82-3822 FAX：0575-82-5191E-mail：gsrc@abelia.ocn.ne.jp 発行 クラブ会報委員会

第2097回 令和5年2月22日(水)

本日の行事 会員卓話 (鷲見啓児君)

2022-23年度
幹事報告

小島正則会長
松森正和幹事

バロー文化ホール(多治見市)
*各務原RCより 一泊幹事会の案内
*郡上八幡RCより 次年度会長幹事名簿作成
依

*ガバナーエレクト事務所より
地区協議会の案内 4月15日(土)

第2096例会報告

会長挨拶

2022~23年度 小島正則会長

皆さん今晚は。今日は河内校長先生、ありがとうございます。昨年は講演会の時には色々お世話になりました。ありがとうございます。卓話よろしくお願ひ致します。

今朝白川まで行ってきましたが、雪が降っていました。高速で帰ってくると車は塩だらけになっていました。この塩が飛驒の川や長良川に流れ出ると、そのうちタイやヒラメが育つのではと思うくらいです。

昨日はバレンタインデーでした。私もいただきましたが、バレンタインデーはチョコレートメーカーやお菓子屋さんが売り上げの為に作り事だと聞きますが、うちの事務員さんが独自で、昨日一日来店されたお客様にマスクとチョコレートのセットを皆さんに渡していました。私も見ていましたが、40代くらいの方が「嬉しい、初めてもらった」と喜んで見えました。ちょっとしたことで喜んでもらえるという事は、渡した方もうれしいですし、貰った方の笑顔を見るとよかったです。商売人は考えることは売上にも貢献できるし、喜んでいただけるという事で、良い事だと思いました。今日はこれで会長の時間を終わります。

贈呈式

郡上北高等学校の吹奏楽の楽器購入費用にチャリティーオークションの売上金を加えて50万円贈呈しました。



外来卓話 (郡上北高校から未来を考える)

郡上北高等学校 校長 川地晃正様

皆さん今晚は。郡上北高校から未来を考えるという事で、学校経営などについて話したいと思ひます。赴任して2回目の職員会議の時に、校長として学校経営をしていくかという話を全職員にしました。その時に使用した資料ですが、郡上北高が何を学ばせるか、何を経験させるかと考える時に、10年後の郡上北高生の姿を想像してくださいと話しました。10年後とはSDGsの目標年になり、Society5.0の世界になっているであろう、地域性の高校なので、地域の責任ある担い手として働いているだろう、自ら事業を起こす人が現れるだろう。おそらくそこには様々な困難に立ち向かって解決する姿を想像させるのではないかと職員に話しました。その時に生きてくるのが、北高で学んだこと、経験したことで、持続可能な社会の実現に繋がって、大人になって家庭を持って子供が出来、お子さんが地域で子育てされて、小・中学校に行き、また北高に入学してくれれば北高はずっと続いて行く、という話をしました。

数年前に県教委が発表した、将来なくなる高校に北高も含まれていました。その時教育委員会にいたのですが、赴任して私の頭の中ではまず存続させなくてはならないという気持ちでした。

持続可能な社会の実現として、地域の視点が欠けていると改めて思ひ、白鳥地域内には様々な組織団体があり、郡上北高はその組織の一つであって、いわゆる寿司気hが様々な機能を持っていて、それが寄り集まって地域が成り立っていると考えた時に、機能を担っている一つに過ぎないと思ったわけです。様々な経済活動をして人々が幸せに暮らしている社会の実現に大きな貢献をしていて、均衡が保たれているのではない

かと思えます。では郡上北高は何を担っているのかと考えた時に、教育とは未来社会へと推進していく力を付ける、それを生きる力と呼んでいます。私たち学校が個々の生徒の力を付ける、その先に10年後があると考えて勉強させています。10年後、地域の中で人々が活動している。人々が幸せに暮らしている社会を実現させて持続可能な社会の実現になるのではないかと思います。

「持続可能な地域の作り方」という本があります。持続可能な地域・人と経済の豊かな生態系と著者は言っております。“地域とは動的平衡状態にある一つの生命体であると同時に、無数の生命体が集まり、繋がり、循環している生態系である”と綴っております。未来に向かって動いていく平衡状態を言っています。未来に向かって動いていく過程で、色々なものが循環していると言われております。この著書の中に循環として新宿ゴールデン街の事が書いてあります。

持続可能な地域の4つの豊かな生態環境というのが紹介されており、地域コミュニティ、チャレンジ、次世代教育、未来ビジョンだという話です。

・コミュニティ・森・海・里山などの自然の恵みを活かした仕事をし、住民同士が繋がり助け合う、豊かなコミュニティ環境の下で次の世代が確実に育つ。地域を離れる人もいれば、新たにやってくる移住者もいて、新陳代謝が活発である。・時代環境の変化に応じて、要素同士の相互作用により、失った部分は修復し、新しい環境を加え、進化を遂げていく。持続可能な地域とは、そんな「生きているシステム」が存在する地域なのだ。私はラインの部分コミュニケーションの力かなと思いました。

・チャレンジ・一人一人の熱い思い・若者の流出、地場産業の衰退を食い止める。魅力を感じてそこでぜひやってみたいというチャレンジの気持ちが必要。

・次世代教育・未来を切り開いていく力を育む。そんな教育が必要。

・上記の3つを支えるのが未来ビジョンだと言っています。10年後の未来ビジョンが分かり易いという事で、SDGsが共通の未来ビジョンで持とうという話ではないかと思っています。「SDGs」持続可能な地域を実現するために活用可能な協力的なツール、共通な未来ビジョンに向かってそれぞれの機能を果たしているのではないかということです。

昨年度、私の経営方針を受けて職員が作ったのが本校の「育てたい生徒像」です。3つに分かれていて、「自己を高める・他者を尊重・社会で生きる」を掲げて学校教育をしています。

本校は地域の皆さんに応援していただいて、地域活動を行っております。奥美濃カレーで町おこしや、公民館応援隊を作って、夏にイベントをしたりしています。食品ロス減らし隊は12名で活動しており3年生は6名います。私は他の校長先生から「郡上北高は地域活動がすごいね」と聞かれますが、私は力を入れていませんと答えます。力を入れているのは生徒です。本校が力を入れているのは主体的に学ぶ授業で、対話的デザイン教育とも呼ばれてもいます。そこで力をつけた生徒は自然と地域活動に参加します。食品ロス減らし隊の6名もそうです。6名の内、国公立大学3名受かっており、1人は郡上市役所が決まっています。以前赴任していた可児高校は塾にも通って勉強させています。本校の生徒は塾に行っておりません。学校で授業をして、自分で勉強する力がつきますし、スタディサプリという教材で勉強しています。十分大学に行けるんじゃないかと、私も驚いています。

ボランティアの案内は職員室の廊下に張り出し、生徒がそれを見て活動しています。普通は職員が疲弊しますが、本校の場合は地域の方々にお世話になって、力を利用させていただいております。

改めて学校の役割は、未来を切り開く力を育む、未来を生き抜く力、地域の機能の一つとして役割を果たしたいと思えます。教育は未来に向かって精神力を作る仕事、郡上北高生の10年後の視点で、現在の郡上北高生が学ぶことを考えましようという事です。以上になります。ありがとうございました。

ニコBOX

ニコBOX委員会 杉山賢君

小島正則君 川地校長先生、本日の卓話ありがとうございました。作年の元中日ドラゴンズ和田選手の講演会の折には大変お世話になりました。

寺田澄男君 川地校長様、夜分ようこそ、ご歓迎します。私は寺田書店の寺田です。3月17日合格発表では教科書販売で大変お世話になります。今後ともよろしくお願い致します。

藤代昇君 郡上北高 川地校長先生ようこそ、歓迎します。卓話楽しみに聞かせて頂きます。昨日78歳の誕生日を迎えました。人生100年時代、まだまだ頑張ります。

鷲見啓児君 まだまだ寒いですね、体調に気を付けましょう。

山口里美君 郡上北高校長 川地様、ようこそ郡上長良川RCへ、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

杉山賢君 川地校長先生、ようこそお出で下さいました。卓話を楽しみにしております。

同文 尾村忠雄君、美谷添生君、和田良一君、羽土洋司君、野島征夫君、石徹白秀也君、寺田正実君、原義明君、畑中知昭君、松森正和君、佐藤備子君、清水英志君、遠藤正史君、若尾隆司君

出席報告

出席委員会 旭 美香君

	会員数	出席者数	欠席者数	補正者数	出席率	出席免除
第2095回	32名	24名	5名	2名	83.87%	1名
第2096回	32名	24名	6名	1名	80.65%	1名

